

# Athlete Interview

## file 3

### デフ柔道 佐藤 正樹

2025年11月開催の「東京2025デフリンピック」まで遂に1年をきる。  
2度目のデフリンピック出場を目指す佐藤選手。昨年4月の世界デフ柔道選手権大会では、見事優勝を果たす。  
自国開催となるデフリンピックにかける想いをきいた。



## 柔道について

---

小さいときは、落ち着いていておとなしい子供でした。ただ、戦隊ヒーローものが大好きで、柔道をしていた兄の柔道着を自分も着れば、ヒーローになれると思って勝手に着ていたことがきっかけで柔道を始めました。これが五歳の時です。

始めた頃はまだ遊びのような感じで通っていたのですが、小学校に入ってから本格的に柔道を習い始めました。

最初の頃は、欲がなかったので、負けてしまってもあまり悔しいという気持ちはなかったのですが、小学5年生くらいになり、試合に勝ちたいという気持ちがわいてきて、そこからは試合に勝つために一生懸命努力をしてきました。

試合の内容によっては、父から怒られるということがたくさんありました。試合に勝った時でも、「どうしてここで攻めなかった？」と怒られることもあり、悔しくて涙を流すこともありました。

今までで一番思い出に残っている大会は、高校生の時に出場した県大会です。毎日毎日厳しい練習を重ね、それを乗り越えて優勝した大会でした。

周りのみんなや監督にお祝いの言葉をかけてもらえたことが本当に嬉しくて今でも思い出に残っています。

デフ柔道を始めたのは会社の先輩に誘ってもらったことがきっかけです。

高校卒業後は柔道から離れていたのですが、今まで世界大会に出たことがなかったので、思い出作りにと2015年に台湾で開かれたアジア大会に参加をしてみました。結果は優勝でした。



## デフリンピックとの出会い

---

デフリンピックは、高校生の際にそういったものがあることは聞いていました。ですが、そのころ、高校卒業以降は柔道が続けたいという気持ちはなかったため、デフリンピックを目指そうとは思いませんでした。

しかし、実際アジア大会に参加してみて、他のデフアスリートと交流したのがきっかけで、デフスポーツっていいなと思うようになりました。そこでデフリンピックの魅力も知ることができました。

## 聴力について

---

きこえないことがわかったのは3歳の時でした。他の子供と比べると発話がなかなかできていないということがきっかけでした。また、車との接触事故にあったことが

検査を受けるきっかけになりました。交差点で車が来ているにもかかわらず、道路に出た私に、母が戻らせるために呼びかけたのですが、そのまま道路に出てしまい、はねられてしまいました。その時に、きこえていないのかもしれないと思い、病院で検査をした結果、感音性難聴であることが判明しました。

普段のコミュニケーションでは手話を使用していますが、家族や友人とは、口話で口の形を読み取る方法で行っています。家族はゆっくりと話したり、途中で区切ったりして話してくれました。

学校の授業では先生が補聴器に直接音声が入るマイクを使ってくれていたので、その音声を、補聴器を通して聴いていました。しかし、先生の口の形がわからなかった時もあり、隣に座っている子のノートを見て内容を把握しようとしたこともありました。そうすると隣の子は「カンニングをした!」と言い、誤解されることもありました。

## アスリートと仕事

---

現在はケイアイスター不動産株式会社のケイアイチャレンジドアスリートチームに所属し、いろいろな活動をしています。競技についていえば、午前中は筋トレなどのトレーニングをして、午後は近くの強豪高校・大学の練習に参加させてもらっています。

トレーニングのスケジュールを自分で作って調整をすることができるのですが、頑張りすぎる性格で、うまく休みを取ることができなくなってしまうこともあるので、休むということも仕事の一つと考えて休むようにしています。



休みの時には、今後やりたいことを目指して、色々な勉強をしています。今はやりたいことがたくさんあり、柔道の道場を開きたいとか、メンタルのトレーナーになりたいとか、高校生の時に教員になりたいというのもあったので、学校の先生に関する勉強も今やっています。なので、休んでいるという感じではないかもしれませんが、楽しみながら取組んでいます。

勉強をすること以外では、「まっきー柔道教室」も開催しています。そこで子供たちに柔道を教えることも学びの一つになっています。座学で学んだことが、実際に子供たちと関わる時には思った通りに行かないことがたくさんあるので、それを知ることもし楽しいと感じています。

柔道教室には、きこえる子供たち、きこえない子供たちや幼児、知的障害の子供

たち、色々な個性のある子供たちが参加してくれています。

柔道というのは、障害があるからできないということはないので、子供たちに自分はできるんだという希望を持ってもらいたいと思っています。子供たちが自分ができるという経験を積むことで、生きていくことが楽しいと感じていけると思うんです。それはうれしいことだなと私も感じています。

2年前に教育実習でろう学校に行ったのですが、その時に実際に子供たちと接して、子供たちが安心して楽しんで活動できる環境を作りたいという気持ちになりました。

そのためにも、学ばなければいけないことがたくさんあると思っています。



### きこえない日常

今の社会は、便利になってきたと思います。コンビニのカウンターに指さしボードが置いていたり、話した言葉が文字として出てくるアプリケーションもあります。一部の東京の駅では、電車の発着音やアナウ

ンスなどを文字や手話で表示してくれるものがありますが、まだまだ地域による格差があると思うので、そういったものがどんどん広がってもらえると嬉しいと思います。

また、災害の際にも、きこえない人は避難先で孤独になってしまうことがあるので、手話通訳がいるか、筆談で情報をもらえるかということは重要なことだと思います。

### デフ柔道の魅力



デフ柔道という競技は審判の「始め」などの合図での配慮（選手の肩をトントンと叩いて知らせる）以外は、デフ特有のルールというものはありません。

競技中は監督の応援の声がきこえないので、自分だけの孤独な闘いになってしまうんです。その闘いを乗り越えて、決めるダイナミックな技を見てもらえるとうれしいです。

また、その孤独の中でも勝つことができるということを見てもらえるとうれしいと思います。

会場に来てくれる方には、競技中に観客席の方を見ることはできませんが、試合終了時には応援席の方を見るので、その時に、手をたたいたり、手をひらひらしたり拍手をしてもらえればうれしいです。

## 東京 2025 デフリンピックへの想い

東京 2025 デフリンピックでの目標は3つあります。一つ目はもちろん金メダルを獲得ことです。二つ目は手話を広めたいということ。三つ目はデフスポーツを広めるということです。

きこえない人が飲食店に行った際に、どうやってコミュニケーションを取ればいいのかわからないことがあります。これはバリアだと思うんです。デフリンピックの開催がきっかけとなり、飲食店で様々なコミュニケーション方法の工夫がされるようになり、心の通じたコミュニケーションができるようになることを期待しています。また、手話はコミュニケーション方法の一つだと誤解されていることが多いので、手話は、れっきとした素晴らしい言語なんだということを知ってもらえると嬉しいです。

Athlete3	佐藤 正樹
生年月日	1993年6月16日
所属	ケイアイスター不動産株式会社
経歴	
• 2015年	アジア太平洋ろう者スポーツ大会 66kg級 優勝
• 2021年	世界デフ柔道選手権大会 66kg級 準優勝
• 2022年	第24回デフリンピック競技大会 66kg級 5位入賞
• 2024年	世界デフ柔道選手権大会 66kg級 優勝